



三河海防要略

ホ 2
4802
3



門 本 2
4802
3

冊 五
號 五 和
函 十

和字正濫鈔卷三



遠袁乎弘音雄尾緒訓等



岑万を

山の尾を
リ。峯同

呼吸を

和名和泉國日根
郡郷名并武紀

雄水門延武男并社土佐
日記よるの漢字は不

雄を

男同さるを
まするを

苧を

麻目をふを

緒を

年の法を
の法を

尾を

万葉和名本たへくす万葉
よてよをそのをよさるよかり

和字正濫鈔卷三

小 を

こしを同韻して
通し小野小塩等

蛇 をろち

日本紀に名
よ又つて

しとちるをいしと。又和名は腹の下よるを名苑を引て云く及
鼻。はは腹和名波美倍或呼蛇為及鼻其音片尾とあり。はは内
は蛇ましかかててくくさといふ村あり。平氏う聖徳太子傳
よしんくころ。いしとちるを略ん蛇をいびといふ。今
梅及鼻よはあぐていしを記ていあるり。そ及はち
ちあしをいすていびといふ。鶏ハとびるを又ハとみよ
いしよは例すべし。りハてしよ及鼻の音よて腹蛇
の別名を總名よいしあせらる。和名よハてしをハとよあり
の和名
とす

姨 をは

小母の略
なるなり

終 をりり

尾張 をろち

和名に
りとち

へうし。於造物名よをりり。あは尾張て池
をりり。あは水のあはるれ。あはり

遠敷 をまよ

和名は狭
田郡名

尾株 をぼり

馬の尾
骨ちり

前年 をしし

万葉。ししちよか
よハ彼年ちり

前日 をしし

万葉。君さのころよまのよ。よりをち
をばかす。よまのね。よまの

よりあまのしをち。いしるれ。どのとハちよ通
下のとハつよ通りて。彼津日といふるち。津ハゆた

万葉ナセハ平等都日とい
つり。俗よもさし人しあり
媒鳥 をとり
和名。誘
を日本

雄 をどり
踊 をどり
万葉又拾遺
物名よき

のをしりて川をいでるをどりわらべよあはれ
しよめるよてし。蝶をとり
かきくろくす知べ

赤箭 をどり
和名 少男 をとり
和代紀よ
少男少女

をこつてはて少男此云鳥等孤少女此云平等
といつり。とせよ津よ通いでて小津子小津女なりけり

のをいりの字の訓あり。後日本紀万葉和名等以日本紀
よおちたしこととせむす。をのこつてはてはるか
たもこの時ハをかくといふ。後據もなき。後従なり。羽
べし。す。ちのこ。雄子といふ。我よて女をめのことといふよ
びて。をことと。そのころ異なり。をといふ。ハ。り。を
とめ。射て。少年よといふ。る。を。は。老。が。通
てい
少女 をとり
和名。誘
通女處女

女 ちんな

ちうなとし。万葉并催馬樂よまをい
とつり。このまはこれんま便り

つ

ちり

妾 ちんまめ

日本 紀

夫 ちうし

ちうしといふはけのまはるをい
ことしといふ。小男をいふことし

これハ夫婦對してつり。源氏よまを
ことしといふ。まをちうしといふ

芥 ちの

右 和

戰 ちのく

男 ちのこ

麻鞋 ちのく

童男 ちうな

日本 紀

蒙籠 ちう

文 選

小領 ちうび

け字未考。ちうびといふは催馬樂よまのちうびや
すにぬいさせめあしといふこと

ちと同韻よて通す。襪をおほくといふはちうびといふこと
びといふるへい。ちうびハ領をいふもちうびといふあり。俗

よふえ
りちり

麻笥 ちう

万葉集 笥や

桶 ちう

今義解は女神よまの麻笥を奉りといふは
水桶とかきまといふ。これよけて思ふは桶を

ちうけといふは麻笥よま
れもさくちうけといふこと

白木 ちう

和名。万葉
二ハうけ

鞆 をふさ 名 和

奢 をぶら 考 未

徑延 文 選 をこかま 考 未

怠 をこら 考 未

誘 をこつ 日本紀わろ

騰魚 をこ 名 和

瘡卧 をえふ 日本紀并

炭 をこ 糸をほむるを

の義 をこ 古事記

通事 同 譯 をこ 異國のこ

りや て相交するを

長 をこ 里長舟長川

はむの略 をこ

○ をこ 万葉

へ をこ

明直 をこ

軌制 と 又幹 をこ 日本紀

他田 をこ 和名駿河國有度郡郷名なり。大和國

儲弦 をこ 日本紀を

ま をこ

不賢 をさな

日本紀よ不肖不敏等を同く
よめりをさく

稚 をさ

ころよ
よ甲をさく
万葉名おさ
むとせうす

納 をさ

兔 をさ
東歌よよ

みされハ東の俗流よて那の方よ通をぬ言んげゆよん
及ぶと。うさねとハ愛鷲ウサキといふこと。はさよ似てうつく

一くれ
もなり
ぬ をさ
又ハのちを
ざ

をざーハ今ものふくしをさなり。お名よハ行貫魚ウツケイとあれハ
魚刺ウツサシの略なり。のちハ万をよのちころとせりハのち

しゆゆをさ
一とつをさや
菰 をさ
万葉延代和
名。たざとせ

へり
ら守
補 をさ
未考

置津 をさ
お名安房國長狭郡名なり。置のか
ちハ旅本カキなり。平本津ツツとにせり。地

のちをとりてハ假名のさをさめか
よをさと下よせり

蚊蟻 をさ
和名
貫 をさ
未考

招餌 をさ
女 をさ
万葉

薰 かちり

常の六かほりなり。万葉集二よ香平流
とあるなよちりよしちよまよのし

滷平無 かこをなり

万葉集六れはてよよは
よてこよよ出すこよこり

あつねど魚倍の流よそのはよ片男浪よこりよこ

しちり流のうりよのよ僻よあるよちりこ万葉集

赤人のまよかちり正字を出

糠蒙 かつをむ

和名
まぐ

ちり

連枷 かつをむ

和名
韓
竿なり

笠居 かさなり

和名 讃岐國
香川郡郷名

風招 かざりをい 日本記
嘯や

賀集 かにを

和名 淡路
四三原郡

郷名

風流士 たくれを 万葉

婀娜 たをむ

婦人 たをむ 日本記等

九折 つしをり 等閑 なをり

魚 うを 鱗尾のまをり
右伝えいを

條 れほを 諸るり

大内 ねをうら

和名伴徳田和名那郷名打はう
らるりへき成け和名さうよこ

あ

頽 くらをり

和名和名
其よ未考

行阿の和名遺よあり。頽ハ崩の字の訓し向一くれ崩
まおしといふんれくつをくらりし何をさうつり

ゆらハほ
るりへ

和 考 やを

やうとし
あり。倍よ

そらりし
いよこちり

鰻夫 やむを

和名
益荒雄

申 まをす

あうすし
日本紀万葉

大夫 ますしを

白り。男

子をほむりさるりあり。あ
しとえたけをいしり

鮫 こうを

和名こうし字
の音やハ魚

あ

斬 てをの

和名

青 あを

和名あを
かくへし

○ 未考 あを

蓑の
類あり

阿桑 あを

和名若狭國
遠敷郡以名

礮 儲 あを

和名ま
礮なり

蔓菁 あを

和名

螟蛉 あを

和名

滄溟 あを

和名

陟釐 あを

和名

鯖 あをささ

和名周防鯖として名おたり。彼國は依
婁郡ありてこより出りおよそ名

付
る元

碧海 あをのみ
和名春河
四郡名

襖子 あを

和名音を
して名付

履糸 あなを
和名

寧 あを

和名
齋具

松蘿 さくらせ
又ま
つの

和名
くけ

掉 さを
万葉和名
又ハカイト

竿 さを

万葉和名依保川よ
しめさるハ保あり

牡鹿 さを

日本紀万葉和名よこまわらは
をうねとをほすさぬ

けつりさなうけらぬ名
けつりさなうけらぬ名

聞食 さを

万葉

濔標 さを
尾水

津籾 水尾永脈

進食 みを
日本紀

驄馬 みを
和名

和名

鎧靴 さを

和名

鮎 さを

和名

ね 於意憶飲等

老

ねい

月よりの樹ハねゆとくく。日本紀并万葉集
於人連老といふ人あり。日本紀老此云於喻
とはありやいゆはよのかよいなりえ補家集
よとおゆとよあり。あつとよへ〜

綏

おいくけ

奥石 おいそ

延式式神
名帳近江

國備生郡又奥石神社あり。石を日本紀よ〜とよめ
リ。石と〜とれるなり。今ハ〜と略るなり。當りよ老曾社と
か〜とおい〜の〜りなりとよむ〜れるなり。万葉集又
社〜か〜りりなりとよあり。花〜と〜のま〜

あ〜ハ大〜の森のあれ〜なりたま〜ら〜付〜
十三よ。ふ〜の奥十山美濃の山〜つ〜
めり奥十山ハ老曾社あり。あ〜とよ〜れり
美濃はよ〜く。た〜て日〜をさ〜む〜

於

おいて

除 ねいて

不覺 おろり

日本紀〜す
〜ふ〜なり

愚

おろり

糲 ねろろおい

又のらぢ
和名

輕易 ねろろ

日本
紀

失意 ねろけて

日本
紀

下風 わふう

葉

卸 おろす

祖母 おば

わな。大母の略。清なり。姨は假名こゝしなり。

邑樂 わがら

わなと野 國郡名

菽蒿 わくこう

わな。刀葉はうらまきうらまは兔をかぐり。依て仙豆はうらまきの好こしなり。

おとつり。まゝし。おやいまゝいぢり。

檻 わづら

名

御坐 わがま

おま。ま。とこし。

鬼 おに

わな。隱の字の音とい。つり。まゝし。まへ。

貫衆 わんじゅう

名

續斷 わづら

名

は。わな

燐火 おまひ

名

太 おほ

大和城上郡にある地の名なり。おの字をこ。か。り。ち。お。は。と。い。ふ。氏。と。地。の。名。を。と。り。て。名。

付。く。ら。を。あ。し。よ。む。ハ。浩。カ。リ。

朧清水 おほろの志

車前子 わづら

名

虎掌 おほか

天南星也

壽悒 わぢり 万葉おほつ

茶 わほつ 名 わ 鶴 わほつ 名 わ

○ 名 おほつ 万葉みられてのろろさ 未考 あり。源氏物語にあり

擲 おほつ 名 わ 祖父 おほつ 大父の さこ也

邑知 おぢり 名 わ わ名ろん回郡名

慄蛸 わほつ わ名慄蛸子なり祖父陸奥のんま名付しりふぐりハ

囊粟 のほつ 袋は粟入 溺 わほつ おぢり

從祖父 わほつ 大伯父なり。わ名よ亦雅を

父為後祖父王 輜 おほつ 名 わ

繆車 おぢり 名 わ 洪鐘 わほつ 名 わ

狼 わほつ 大鬻。大狩。大目。大紀。大飲。大明。大記。大狼を指しては貴姓といふなり

り。又大和言布部よとれ系あり。また系よ大口のよれ系とつけけしるる狼のあれりなり名付しり

彼國の風土記よるしつりごと
れよしれそ大津といふよめ

大膳職 おぢうーそでつらさ

榊をいふ
盤

よれけ名氏
存らんなり

凡 ねほよめ

奴婦 ねぢよめ

お名。おしよめのあし
よめをいふなり

人良 おほしう

日本記

虎子 ねぢよめ

剃具
お名

舊愷 おほつら

万葉

螿 ねほつめ

蟹大脚
也。お名

蘿葛 ねほね お名

蝗 ねほね お名

菟藟 ねほらう

みはら
どりお名

袒姑 おほおば

尔雅云王父之姉妹为王姑。お名
於保於岐とあるトの於を平なり

くんと寫生の保はらうと云へきく袒父の姉妹なれは常
の姨よ對して大姨なり。大袒母といふへきくしなり

舅袒母 ねほおん お名

母の異教なり。お名よ文字集略を引て曾重しなり。
又お名よ孫の一名をいふ事孫をいふことしなり。俗よ

保てきり孫をりことりり。目翳をいといひあの一を
しといひあまはけてとふいひきまり。降しりさこくしり。
いといひあまはけてとふいひきまり。降しりさこくしり。
隔の字をいひかきり。いといひきまり。降しりさこくしり。
きよや俗よしり。いといひきまり。降しりさこくしり。
いといひあまはけてとふいひきまり。降しりさこくしり。
いといひあまはけてとふいひきまり。降しりさこくしり。
いといひあまはけてとふいひきまり。降しりさこくしり。

曾祖父 おほくぢぢ 族父 ねほおぢぢぢぢ

わな親父の
兄弟をいふ

大口袴 ねほくぢぢぢぢ

くま

襪 ねほくぢぢ わ

大和 ねぢぢぢ

わなよわ列をりりぢぢぢぢぢぢ
いといひあまはけてとふいひきまり。降しりさこくしり。

いといひあまはけてとふいひきまり。降しりさこくしり。
いといひあまはけてとふいひきまり。降しりさこくしり。
いといひあまはけてとふいひきまり。降しりさこくしり。
いといひあまはけてとふいひきまり。降しりさこくしり。
いといひあまはけてとふいひきまり。降しりさこくしり。
いといひあまはけてとふいひきまり。降しりさこくしり。
いといひあまはけてとふいひきまり。降しりさこくしり。
いといひあまはけてとふいひきまり。降しりさこくしり。

覆 ねぢぢぢ 覺 ねほえ おほゆと
通すおぢぢ

あこひ 正親司 ねほきぢぢぢぢ

課 おほせ

當歸 ねほり 和名 大芥

のらるり。又やまのせり
しうまといりし

音 ねと 万葉よおほし
をどくちへうす

棘 ねどろ

未考得。後女口の春日野のおどろのこち
乃うりれ水あゝよ林のまろーあ
しととあこ給つら。大臣のまゝて。殿友よ沈めり
を非ようゆえ。尸さくたり。彼家乃末の人けを
思いてあゝよ。ちさりを春日野のおどろ
うてや非よめ。ん。ゆよれ。今の服名よ定
まれ。りし。りおどろく。し
尺ゆらおるれ。ををおほせ。し

警 ねどろく

衰 おとろみ

大臣 おとろ

弟 ねと

和名おとろ
し同。芸

よをく。勇へう。ず。見より。年のおと
れ。おと人のこころよ。名付し。し。れ

劣 ねとろ

業師も佛足石、傍、光明皇后、席をたあ
り。彼佛足石興福寺よある。よ。抄。ま

よ。え。く。これ。た。よ。業師。も。よ。ある。う。よ。よ。業師。如。あ。の
席。事。を。よ。め。る。ま。あ。れ。ん。ま。り。業師。も。よ。め。る
ん。を。山。階。ち。し。ら。ゆ。り。め
― た。く。し。れ。く。よ。や
領 おとろい 和名

娉婦 ねとらめ 和名

長 ねとら 未考

響 ねとらみ 日本

乙訓 ねとら 和名山城国郡

右云仁紀より昔の那那弟國とあれはさへ割て郡と
なされたりなり。仁天皇丹波道主王のむすめみ人
をめせり中よ竹野媛ハみよらさよよりて本士よ
しつらりしをくさるを馳て。たつりて興より墮て男
まらりけるをよ。おちくまのいひくを。
よこふまりておとくまといはらるるなり

怖 ねとす

隱地 ねち 和名隠岐
国郡名

下 ねりあ 日本

綺 ねりあ かむり
とよ。和名

織 ねり 日本紀万葉和名等。世
よをらりとてハ深るなり

麗 ねりみ 日本紀万葉
延表式等

妖言 ねりみ 日本

日本紀
紀万葉

指 ねりみ 和名。附駢拊
むつあし

踏 ねりみ 和名

愛宕 ねりみ 和名山城
国郡名

穩 ねりみ 日本紀
やうお

爾 ねりみ 日本紀
把人を殺し

めて罵るるるり。今の世とつうおれとらふしんをが
ハおのれの申暇をズトさまの人をさしてこれらふ
我ハ叶りす。お又音の字な
とハおれとらふしんを

齧 れらば まじりやもろさをひびくなり。おもひぐなり。おもひぐなり。おもひぐなり。

と^{サキクサ}かま^{サキクサ}て。三枝の^{サキクサ}ぐ^{サキクサ}と^{サキクサ}る^{サキクサ}る^{サキクサ}押齒の^{サキクサ}ま^{サキクサ}り^{サキクサ}く^{サキクサ}く^{サキクサ}る^{サキクサ}な^{サキクサ}ま
名何奉るとあれお^{サキクサ}ぐ^{サキクサ}と^{サキクサ}ら^{サキクサ}へ^{サキクサ}。俗は親ま
ずといひて奥の方よま^{サキクサ}く^{サキクサ}く^{サキクサ}る^{サキクサ}齒あれハ邊
齒と^{サキクサ}ら^{サキクサ}ふ^{サキクサ}人^{サキクサ}あ^{サキクサ}ら^{サキクサ}つ^{サキクサ}。ま^{サキクサ}き^{サキクサ}ら^{サキクサ}り^{サキクサ}す^{サキクサ}へ^{サキクサ}く^{サキクサ}す

恐 れらる 日中 襲 れらふ

驚馬 おろまむま 名 和 遅 れら 名 和

字用 字用 鈍 れら 名 和

落 れつ 万葉書みよの字を引。同韻よて通す。多きよは

憎 おづ 日本 假名ハ佛足石 同 れら 日本 假名

やどと^{サキクサ}し^{サキクサ}り^{サキクサ}。同韻よて 日本 假名 叫 れら 日本 假名

通^{サキクサ}ら^{サキクサ}る^{サキクサ}別^{サキクサ}よ^{サキクサ}た^{サキクサ}は^{サキクサ} 万葉書みよ 嫗 れむ 和名 老女稱也。女の假名

和名は餉加礼比
施久留しとあり

墓 ねくつま

日本紀
美奈

手と
かぐり

御座 ねま

追 およ
美奈和名をよ
と去へしとあり

負 ねよ

後 おろ

美奈の字
用しと誤る

晚稻 ねく

和名又万
美奈奥

親 ねや

やとい通るハ
卷のそとあり

於隼 ねけ

古説於き
云本名

生 およ

蛤 ねよ

和名

飲布 ねふ

和名上総國
望陀郡郷名

大市 ねあち

和名播磨
國揖保郡

和名は和名おほ
しとか、ねあよとあり

瘖啞 ねや

和名

凡河内 おろかろ

凡海 ねあ

和名

丹は加依
那々名

全匏 ねあ

日本紀

拍浮 ねう

文選

ねあ

和名け中のあり
法濁未知
まハ水をおてし
うかいをり

成りあれとの令
範ハ仁徳天皇紀
よありとあり
あましとあり
若し水よ浮へて
沸し沈めしとあり
あまえしとあり
づめとあり

万葉集 假名曰紀并
万葉集 難波持河也

帯

ねい

日下紀万
葉和名

鞆

ねい

和名

賺

ねい

和名

めのとしし母之恩を
くれハきしと云義丸
子のさ
なり

符

ねい

日本
紀

鞆

ねい

和名

勝

ねい

和名

母

ねい

古流なり附
乳母らおしと

黧

ねい

和名
面黒

侍従

ねい

き

澤瀉 おり

美名假名
其未考

阿容 ねい

未考

く背向
なり

をさし葉よりあしよあ
るししと略なり

面 ねい

顔

文選

ねい

絡頭

ねい

和名

赴

ねい

面向なり
背をむ

母屋 ねい

ふし思

思

ねい

表

ねい

重

にり

後日平紀
おりの甲

阿怜にり

万葉。古語於推古は天照大神天の思をを歩ふやういふ
は人のおりて明くくまふくくをよ面へいひいけ
るゆゑにんくく。け怜ハ憐まて音しをこし受るるを
昔より通して辨名なり此二字を日本紀并万
葉よりうまひしし
あられししめり

篤疾

にり

日本
紀

想像にり

思遣

にり

日本
紀

よハかくくまて。せ思ひををわらる
す後いつり。想像よハ甲かす

押
ねす

万葉和名。推すと去へし。家隆ののり
はよとむをのりしとよのりしとよのりし

ふこのの誤あり。いしよハちねよ天の産を押のこと
よめハ産を押してのりしとよのりしとよのりしとよのりし
のりしを産といしてをのりしとよのりしとよのりしとよのりし
のりしとよのりしとよのりしとよのりしとよのりしとよのりし

於須岐
おす

古語於遺は強女
をいふとつり

護田鳥
にすめ

和
名

申下のね

稻負鳥 いなおほせどり

和名よ万葉を引くた
まじし万葉よ八橋負るハ

よのちのす若新撰万葉を引くたを新撰の二字に添へるよや
ととへし奥義抄よ和名を引くわらうのし只万葉集
云しあれハ暗記のたうつらよや小町家集
よいさうことよめりしけるの別名よや

外祖母 ほくののおぢ

和名

外祖父 つくののおぢら

和名

鍾 はりのねり

和名

促織 つるりめ

和名

腹帯 はくのねり

和名。俗よ馬のいろいごのよ良旅
切呂なれどはろいしよあへま

三又お通 ーてお通 ーて
はりのねり

漿 にねり

和名よつ
らりげ

俗云よおほいとありつらりつハ依れ有り。よおほいと
とよいふしとありいねるれハ糞水オホとよふとろん。又此
字を常よこんげとよハ濃水ユなり。和名よハ別よ醜の字
を出せり。菓けるよとよとろるるれハこき水ありとて
かくハ名付きハ帆水ニオホといふよ
や俗よおほゆといふこれ

高祖父 とちりねや

和名

乳母 ちねり

和名よまよしめのおしとありこれ
を略してめといふやうに乃名

猶豫 うづれほひ

日本紀又よみおほく思ウラオモフひ

占をすなりやう
よとつなり

懷香 くれのおし

名 和

鞍肥 くらたほひ

名 和

鞍鞍 くらた

名 和

排鞍肉 くらおき

名 和

幣袵 くらいおほひ

名 和

耆宿 くらたまか

名 和

陸奥 みちのたぐ

略してちのくといふ
よむつ略のくらといふ陸をさ

の字よかりてかくるのありよかりて保まらんを。こり
こりなる。ハみじむちこりなるをかりてこりなる
箕面 みのれ
ちよとをさるるに文字ハけらるるの介
る。これらのおりなり。略してこりなる
ちよとをさるるのやうに。字のう

衿帯 ひまおほひ

名 和

中下のほ 附 かねよまをさるるをさす

山巖 いとほ

和名。おほく石穂しかり。ほのなかま
ほろとつたけの字よてそれ

あつりれて足ゆりよ名付りるの橋蔭なるもの
菫の~~~~~菫の帆し和訓八日さるるく

五百重山 いほくやま

五百重山いほくやま。名不ふあり。おほくきるわらふ山のさな

ふ。五百千を古る記よし万葉ふし。伊保かとかくりてを
ちかたりとつる詞を百千返るりといふらひしことあり
さりやと字ゆれとけ詞かきまよは移ぬるありありと
たれかまの比まてハ假名をよく知るるへかれし百千返
よハあつて
別の詞もや

廬 いほり

營 いちり

庵 いほり

勢 いきほひ

憤 いきほり

日本
紀武

内宿
祢袂

早穂 はつふ

橋のあり
しるを州

て。神よ奉り天嘗余よ六神よ抜穂使をたてし
かきらなよりありありの地の和を神よ奉るをいふ。三
代実録よ錢早穂二十文といふ。今の倍
初尾とかくハ暗推めて假名したるあり

磯鷗 ほふ

日本紀古より記万葉和名号。又古事記よ
く不しあり日韻よりく通す

匂 にちふ

頬 ほく

和名又つて下
のほをのこ

くじくまひまきりまらうとつり。右はよふくじまふむ
いふほむとつり。類を物を含む不なれはくじり
懐をふくくるといふ。合不言とつりるる
へ。つりを面のぬえとおりつり。注なり

厚朴 ほくかきものま

一万葉
和名

振 ほつたる

俗より方立とかくハ高名佩名サるよたり
つり。和名よハ保古多知とありつり。ハ
雅注を引て。門、兩旁、本也といつり。銚の
ろ本なれハ辨立也。但又和名よ辨色立成を引て。類
とあれえはくじり同韻よて通して。けくちをほ
くちとつり。銚を考よハのこきりといふ。つり

名よハのはきりといふ
に注くして思ふし

酸漿 ほつじ

和名カビ
ち日下記

面子 ほつす

かほかせし
遊仙窟和名

鳳蝶 ほつふ

和名これハ二字ともよ音なり。注
四風至郡をみりといつり

斂咲 ほつむ

又忍咲ハ遊仙窟。これハ急まほつ
きを志のびて。いづりよも合

咲ハといふなり。又類ハの
咲をみりといふ。和名よ

緜 ほつすけ

和名
類助
なり

焔 ほのち

和名
火槍
なり

十市 とほち

和名大和國郡名十市乎八とををたり
地名よ六書よ遠つるるり 和ほち一故

あり

通 とほち

日本紀古事
記美事古語

へし

於きこむ一曰。いもるるくとまへうす。蟻通
非のふよていもるる星を六と思ふとある

通熊 とほちりらま

和名をき長下郡以名か
つとれまことこの地あり

上祖 とほりおや

和名

遠射 とほるけ

和名

遠 とほり

古事九事の系和名ホ
とほりくとまへうす

大 とほり

和名日本紀
和名系系

調 とほり

滯 とほり

止凍
和名

あり

蝙蝠 かんちり

和名
等

顔 かほ

薫 かちり

○ 未考 かほ

和名をきあまのいしとの
ほりねやうのしをかほり

あり

垣穂 かほ

和名

直衣と

し和名

空

考未

うつほ

久く。海指
とく。丸

駒じて

通す

四甲賀

類々名

大 ねなきなり

潤 うるほふ

潮 うほ 和名焼た
る塩みむ

鋸 のほきり 和名不
とこ日

老上 ねなか、 和名
近江

覆 ねほふ

多 ねほ

八百日行濱 やふくゆくいま

万葉

真帆 まふ

片帆よ
射す

飛廉草 ふほりて

又ハ〜

きし和名

比 ころほひ

蜻蛉 こほろぎ

和名

郡 こほり

氷 こちり

凝こみ
を神より

温菘 こほね

和名小菘
菘こみ

いさをを略したる。ハ今のハ放の字あり
ころね骨違るなりと思ふ人あり。ひがらなり

黎明 あらるころをひ 赤曾保舟 あげのそ

ほふね 万葉外代紀下よ緒をそほふよしとあり。緒ハ赤土なり。ガ多ふナはよふのまをほふのそよ

出てしとよめりし真緒アキソ 赤緒船なり 牽牛子 あいさうぢ 名

謹ハ葬なり。中ころつより後て、これをあはさかるとよめり。葬ハ和名よきことあり。比蓮と記しつゝ一名のそことなり。俗よむくげとつゝ六本重なり。又本芙蓉とつゝしと名比蓮と記よねる。花の様只一柱の

権花と 名 狹穂 さほ 依保と同。春日もあり

乃くころ 名 狹穂 さほ 依保と同。春日もあり

猿囃 さるは 猿頰サルハカ 競 きほふ 和名

半天河 きあらしほのそ 和名

標 みさな 未考。り 標行乃半の〜〜〜るはく

とちん 未考 御修法 みしほ 依

まよわ 未考 塩 ーか 名

ほよよしとあり。原氏よ志か〜〜〜まづらるる〜とよめらるる〜と同一。志ほら〜と同一と云。あは

まじり
まじり

醃
まじり
ほ
和名肉
将酒あり

鞍
まじり

一入
まじり

将酒
まじり

旋子
まじり

貝

廻
まじり

日本紀古事
記万葉等

縁
まじり

催
まじり

み

やり
まじり

質
まじり

の

